



とねっと協議会だより VOL.21

【参加施設数】157施設（中核施設12、病院・診療所82、歯科医療機関10、調剤薬局42、検査施設6、圏域外医療機関5）

【参加住民数】35,107人（うち圏域外住民41人） *12月31日現在

発行日／ 令和4年1月17日 発行／ 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局

電話番号／ 0480 (63) 0003 FAX／ 0480 (63) 0033 URL／ <http://www.saitama-tonet.jp>

令和3年12月22日(水)に第10期通常総会を開催しました。総会では、主に次の1項目について報告し、また、2項目の議題について協議が行われました。

I 報告事項

1 新型コロナウイルスワクチン接種への「とねっと」活用について報告

加須市、幸手市、杉戸町から新型コロナウイルスワクチン接種における

- ・集団接種でのアレルギー情報の問診等への活用
- ・救急搬送（アナフィラキシー）への基本情報活用などの「とねっと」活用事例が報告されました。

II 協議事項

1 令和2年度事業報告及び収支決算(案)を承認

令和2年度の財務活動状況や各種取組などをまとめた事業報告と協議会の運営に係る収支決算が承認されました。

【収支の状況】

○決算額：11,649千円（前年度：10,854千円 795千円増）
事業活動収入 13,415,072円 事業活動支出 11,649,386円
当期収支差額 1,765,686円 前期繰越収支差額 2,044,191円
次期繰越収支差額 3,809,877円

2 令和5年度以降の「とねっと」システムのあり方(案)について協議

令和5年度からのシステムの延長・更新等に向け、県・行政等とのこれまでの協議を踏まえ、現状での主たる課題への対応について協議がなされました。

【主な課題】

- ①国のシステム整備との機能の重複
 - ・データヘルス集中改革プランの工程
 - ・国のシステム整備内容
⇒「とねっと」と国のシステムとの比較検証
 - ・国のシステムの方向性
⇒マイナンバーカードの利活用・普及がメイン
- ②システム更新にあたっての財源確保

【更新にあたっての現行システムの評価】

現行システムの評価を行うために、
・参加住民（患者）の意識調査
・参加医療機関の意識調査
等を実施することについて説明がされました。

○主な意見

「とねっと」の普及のためには、参加者の支持を得る必要があり、各構成市町の基幹病院が中心となって広めていかなければならない。

救急搬送での活用や、健康記録等の利用による「とねっと」が便利であることを宣伝して、継続に向け、機運を高めていっていただきたい。

○「とねっと」に対する埼玉県の認識(医療整備課) (県議会での知事答弁)

「参加者の広がりには課題があるものの、限られた医療資源の中で、地域医療全体を支えるツールとして、重要な役割を担っている。」

◇◆◆主な視察・取材・事例発表（現行システム）◆◆◇

- H29. 9. 5 厚生労働省の「医療情報連携ネットワーク支援Navi」へ掲載等の取材・現場視察（医政局 研究開発振興課 企画調整官ほか）
- H29. 10. 22 厚生労働省「在宅医療・救急医療連携セミナー事業」での事例発表
- H29. 12. 19 厚生労働大臣へ新「とねっと」の説明（大臣室）
- H30. 2. 4 厚生労働省「在宅医療・救急医療連携セミナー事業」での事例発表
- H30. 8. 17 内閣府規制改革推進室の視察
- H30. 11. 10 滋賀県医師会の視察
- H30. 11. 22 経済産業省・東京工業大学の視察
- H30. 12. 3 総務省・NTT東日本の視察
- H31. 1. 24 厚生労働省の現場視察・意見交換（医政局 大臣官房審議官ほか）
- H31. 2. 2 大分県「うすき石仏ネット」の視察
- R 1. 5. 30 深谷寄居医師会の視察
- R 1. 9. 25 厚生労働省の現場視察（医政局 大臣官房審議官ほか）
- R 1. 11. 5 長崎県佐世保市医師会の視察
- R 2. 2. 6 総務省「医療等分野のネットワーク利活用モデル構築」にかかる調査研究の視察
- R 2. 4. 27 内閣官房 未来投資会議における「とねっと」の事例紹介
- R 2. 8. 19 日本医師会総合政策研究機構の取材
- R 3. 1. 12 厚生労働省の取材（医薬・生活衛生局）

※裏面に、「とねっと」システムの主な活用状況を掲載してあります。

「とねっと」システムの主な活用状況（令和3年4月～令和3年12月まで）

1 医療機関での参照件数（病院・診療所の所在地別）

① 病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 190件

（内訳）加須市30件、羽生市1件、久喜市8件、幸手市115件、宮代町4件、杉戸町32件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

② 中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 55件

（内訳）加須市1件、久喜市8件、幸手市8件、宮代町12件、杉戸町26件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を中核病院が参照

③ 中核病院 → 中核病院 83件

（内訳）加須市8件、久喜市2件、幸手市73件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を中核病院が参照

④ 病院・診療所・調剤薬局 → 病院・診療所・調剤薬局 43件

（内訳）加須市19件、羽生市1件、久喜市6件、蓮田市1件、幸手市6件、宮代町3件、杉戸町7件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

2 救急システム延べ使用回数：1,837回（医療機関49回、タブレット1,788回）

3 健康記録延べ使用回数：7,237回

○活用内容…スマホの「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方、調剤情報の入力（中核病院や調剤薬局は自動登録）・時系列参照等による自身の健康管理に活用

4 救急端末参照システムの使用状況（平成24年7月～令和3年11月まで）

「とねっと」参加患者の搬送人数 3,861人

うち、3,534件の搬送において、情報参照及び医師への申し送り等に効果

（内訳）行田市2人、加須市1,688人、羽生市9人、久喜市430人、幸手市344人、白岡市40人、宮代町340人、杉戸町681人

■救急タブレットの活用事例（消防からの情報提供）

日時	令和3年10月25日	月曜日		種別	急病	搬送先病院	東埼玉総合病院
傷病者情報	年齢	性別		傷病名	程度		
	56	女		乳がん	重症		
概要	数日前から食事がとれなく、体動困難となり救急要請したもの。						
使用状況	とねっとタブレットにて氏名検索したところ、該当者を発見。詳細が入力されており、傷病者等へ負担をかけることなく掛かりつけ病院へ収容することができた。また、現場滞在時間の短縮にも役に立った。						

5 連携パス機能の活用状況（令和3年12月末現在／東埼玉総合病院）

① 循環型連携パスの適用患者数 382人

（内訳）適用患者の所在市町村別内訳

加須市7人、羽生市1人、久喜市28人、蓮田市1人、幸手市75人、白岡市4人、宮代町96人、杉戸町169人、春日部市1人

⇒ 連携パスを院内の患者に適用することによって、病院・診療所間の連携だけでなく、患者の検査実施状況のチェックや異常値の把握などにも活用

② 連携パスを用いた連携施設数 34施設

（内訳）連携施設の所在市町村別内訳

加須市2、久喜10、蓮田2、幸手10、宮代3、杉戸7